

平成30年度 学校評価（自己評価結果等）

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>地域からの期待はこれまで以上に高まり、特色のある学校づくりが求められようになってきた。生徒が自らの未来を切り拓き、地域の未来に貢献するために「生きる力」を身に付けさせる。そのために主体的・対話的で深い学びを導入し、キャリア教育の視点を踏まえて地域と連携した学びを実現するなど、特色のある学びのフレームを構築し、魅力ある教育活動を実践していく。</p>		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>留意事項</p>
<p>学習指導 (教務部) (特別活動部) (図書研修部) (教科会)</p>	<p>基礎的・基本的な知識定着を前提とする「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、一層の授業改善に取り組み、主体的な学びを通して生徒の自己有用感を高める教育活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の多様な特性を理解し、計画的な学習活動を促すことを通して、学習習慣を確立させる。 指導法を工夫し、体験的・探求的な学習を導入して、学ぶ楽しさや達成感を体得させる。 部活動、学校行事等、授業以外の場面での学びの大切さを理解させるために、読書活動などメタ認知の育成につながる活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に自分の特性を自覚させ、それぞれの生徒が、自分にあった学習習慣を確立できるように指導する。 生徒が能動的な学習ができる授業を展開できるように常に授業改善を心がける。 部活動や学校行事から学ぶべきものを明らかにしてその大切さを実感させ、その成果を他の場面に活用できるようにする。 図書館蔵書の充実により、読書による知の獲得、時間・空間を超えた間接的経験を豊富にさせる。
<p>人権教育 いじめ防止 (生徒指導部) (特別活動部) (保健部)</p>	<p>集団活動を通して、規律を尊重し他者と協調しながらより良い生活を築こうとする態度を養う。 ・命の大切さを知り、自分を大切にするとともに、他人の感じ方を思いやる能力を育てる。 ・いじめを許さない雰囲気をつくり、同時に支援を必要とする生徒をいち早く察知し、教員が組織的に対応できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各行事や活動を通じて集団への所属感や連帯感を深めさせ、公共の精神を養うとともに協力してより良い学校生活や社会生活を築こうとする「主権者としての態度」を育てる。 教育相談委員会、いじめ・不登校対策委員会の充実を図り、個別の生徒に対する支援チームを立ち上げるなど、迅速にかつきめ細かく対応できる体制を常時整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事や部活動を通じて、自ら課題を見つけ、その解決に主体的に取り組む経験を積ませるために、ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験的活動への積極的参加を呼びかける。 生徒一人一人に対して、さまざまな角度から理解できるように担任、部顧問、教科担当者などの情報の共有・連携を図る。 日常的な観察だけでなく、担任による面談やアンケートなどを通じて生徒の状況を把握し、いじめの防止、早期発見に取り組む。状況に応じては、関係機関との連携も積極的に行う。
<p>キャリア教育 (進路指導部)</p>	<p>キャリア教育コーディネーター活用事業を活用し、学校外との連携による「開かれた教育課程」の実現を目指す。 育てたい能力を明確にして、学校全体でその育成に取り組む体制をつくり、生徒が積極的に自らのキャリア形成に取り組める環境を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究(学習)の時間およびLTなどを活用し、生徒が自己の特性や適性を把握し、自己の将来を展望できるように指導する。 生徒の進路実現に資する職員の指導力の向上のための研究会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の将来を見据えて、自ら探究して進路目標を設定し、達成できるように指導する。そのために教員間およびキャリア教育コーディネーターとの連携を図り、常に情報の伝達ができるように環境を整える。 自己の特性や適性を把握し、適切な進路目標を設定することができるように、指導する。 校外学習の際には目標を明確にし、達成できるように事前指導を行う。実施後の振り返りを通して達成度を検証する。
<p>安心・安全な 学習環境の整備 (総務部) (生徒指導部) (保健部)</p>	<p>学校内の環境を整備し、生徒が安心して快適に学習に取り組むことができる環境を整える。同時に、生徒が安全に登下校できるように安全指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常の清掃活動を中心に、不要物の処分や保管場所の適切な設定を進めて校内美化と防災対応の両立を図る。その成果は生徒美化委員や、安全衛生委員の点検によって検証する。 地域の一員としての意識を育てるために、交通安全指導を継続するとともに、防災の面においても、地域に貢献できるように、自助・互助の精神を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に清掃活動に取り組むことができる生徒を育成するために、常に使用する側の立場に立って環境整備を進めるように指導する。また、お互いに清掃状況を確認し合うことによって清掃への意識を高めることができるように指導する。 交通安全意識を高めるために、地域の人々の目線を生かした指導を行うとともに、地域における交通安全啓発活動に積極的に参加する。 防災に対する学校の取組を地域へ発信するために、ホームページの更新や啓発活動を継続して行う。
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の習得を前提として、さらに深く学ぼうとする姿勢を育てる手立ての工夫が行われている。 生徒一人一人が大切にされているという実感を持ち、互いの良さを認め合える人間関係をつくることのできる指導が行われている。 自己の長所を、より良い社会づくりのために生かすことのできる進路選択が指導されている。 安心・安全な学習環境の整備が進んでいる。 在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに教職員のメンタルヘルスの保持に努めている。 		